

戦前の神戸画壇を振り返る

～ 鯉川筋画廊と美術家たち ～

神戸において画壇の形成を予感させる萌芽が芽生えたのは大正の頃でした。カフェなどで作品を発表する画家が現れると、それはほかの画家への刺激となり、画家同志の交流が生み出されます。彼らの中にはグループで展覧会を催す人たちもあり、昭和になると専用の会場を提供する人も現れます。画家たちの交流はいよいよ活発になり、例えば「神戸まつり」の前身である「みなとの祭」といった、市をあげて催される事業にも深くかかわるようになりました。今回の講座では、戦前の神戸において、現代では考えられないような親密な関わり方を見せた美術家たちを、その作品とともに紹介し、戦前の神戸画壇を振り返ります。



《(神戸みなとの祭実況)女王の玉座まします花自動車》(1928年)
(みなとの祭で女王の衣装や自動車のデザインに協力しました)
【神戸関係絵葉書帳(仮題)】神戸市立博物館蔵



みなとの祭に繰り出す 兵庫県美術家連盟の百鬼酒宴 (1934年)
(自ら描いた鬼の面を被って祭りに参加) (写真提供: 神戸市立小磯記念美術館)



林 重義《カーニユ城址》(1931年)
油彩・カルトン 59.8×72.0cm 神戸市立博物館蔵

お申込
先着
35名

開催 12月8日(土曜)

時間 10:00～11:30

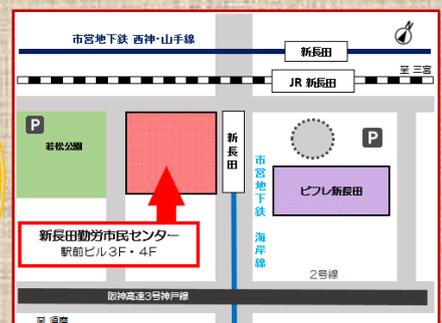
場所 新長田勤労市民センター
3階 講習室 1

講師 神戸市立博物館 学芸員
辻 智美

料金 無料

受付 11月8日(木曜)から

お電話・窓口にて



… お申込み、お問い合わせは …

(公財)神戸いきいき勤労財団
神戸市立 新長田勤労市民センター 3・4階
(JR・地下鉄 新長田駅 下車すぐ)
〒653-0038 神戸市長田区若松町5丁目5番1号
☎078-643-2431

●受付時間 午前9時～午後8時(日・祝は午後4時まで)
第3木曜日(休館)